平成 30 年度　第２回広島市感染症対策協議会

平成 30 年５月 21 日

【日　時】　平成 30 年５月 21 日（月）19:00～20:00
【場　所】　広島市役所 14 階第７会議室
【出席者】　小林　正夫、吉川　宏治、髙橋　宏明、佐藤　貴、新甲　さなえ、堂面　政俊、増田　裕久、藤本　三喜夫、安井　耕三、松原　啓太、南　心司

１　感染症に関する最近の情報《公開》

（１）麻しん対策等について（資料１　Ｐ1～19）

沖縄県では、初発の麻しん患者が報告された平成 30 年３月 20 日以降、５月 16 日までに 99 名の患者が報告されている。さらに、沖縄県を旅行した人から麻しん感染が報告され、その後、当該患者の居住地で二次感染、三次感染が発生するなど、全国各地で感染が拡大している。

国においては、人の移動が活発化するゴールデンウイークを前に、医療機関に対して麻しんを意識した診療について通知するとともに、海外渡航者向けには、予防接種歴の確認や接種の検討及び帰国後の健康観察ついて周知するためのリーフレットが作成された。

また、本市においても、ホームページにより麻しんに関する情報提供を行い、沖縄を行き来する市民等に対し、感染が疑われる際の行動等について注意を呼び掛けている。

（委員意見）

麻しんは予防接種が唯一の予防策であることから、引き続き、定期接種対象者への勧奨を行うとともに、定期接種の時期にない者で、「麻しんにかかったことがなく、ワクチン接種を１回も受けたことのない者」へも接種を勧奨してほしい。

（２）ＨＩＶ検査普及週間について（資料１　Ｐ20～26）

平成 30 年４月９日付け通知「平成 30 年度ＨＩＶ検査普及週間について」により、今年度のＨＩＶ検査普及週間に係る実施要綱が示された。

今年度も６月１日（金）から６月７日（木）をＨＩＶ検査普及週間とし、全国でＨＩＶ検査や相談体制についての普及啓発が行われる。

期間中、本市においては、各区の保健センターにおいて臨時検査を行うとともに、パネル展示やリーフレットの配布等を行う。また、６月１日（金）及び２日（土）には夜間の臨時検査も行う。

厚生労働省エイズ動向委員会の速報によると、平成 29 年の新規ＨＩＶ感染者報告数、エイズ患者報告数はそれぞれ 992 件（過去 11 位）、415 件（過去 11 位）となっている。

いずれの感染経路も、性的接触によるものが 8 割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。トピックスとして、３年ぶりに複数の母子感染例があったこと、感染発覚時にエイズを発症している患者の割合が依然として約３割のまま推移していることが挙げられているが、これらの現状やエイズ予防指針を踏まえ、本市においても、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していきたい。

（委員意見）

ＨＩＶ検査に併せて梅毒検査（迅速）を行うことにより、受検者の検査に対する関心が高まるかもしれないので、今後の梅毒検査本格導入を期待したい。

（３）平成 30 年度インフルエンザＨＡワクチン製造株の決定について（資料１　Ｐ27～76）

平成 30 年４月 19 日付け通知「平成 30 年度インフルエンザＨＡワクチン製造株の決定について」により 2018/2019 シーズンのワクチン製造株が示された。

季節性インフルエンザワクチン製造株について、昨シーズンは、国立感染研で製造株を選定した後に、株の増殖率が悪いことが判明したため、製造株の再検討を行い、変更する事態となった。

このことから、厚生労働省は製造株決定のプロセスを見直すこととし、候補株の有効性・生産可能性の観点から製造株を検討する小委員会を新たに設置した。国立感染症研究所の推奨する複数の株の中から、小委員会で選定し、小委員会の意見を踏まえて健康局長が製造株の決定することとなった。

なお、速報によると、2017/2018 シーズンのインフルエンザ推計患者数は、2,230 万人

を超え、近年で最も大きなインフルエンザの流行となっている。これは、新型インフルエンザが流行した 2009/2010 シーズンの約 2,100 万人を上回るものである。
　また、厚生労働省は５月 16 日に開催した専門家会議において、インフルエンザ治療薬タミフルの 10 代への原則使用禁止を解除する方針を決めた。
（委員意見）
　製造株決定プロセスの見直しに伴い、今後、ワクチンが安定供給されることを期待したい。

２　４月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料２、３）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

３　全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病　　名	４月分	５月分
		報告日 4/2～5/6	報告日 5/7～5/17 現在
２類	結核	10 人 （結核７人、潜在性結核３人）	５人
３類	腸管出血性大腸菌感染症	１人（4/16）	
４類	レジオネラ		３人（5/8、5/14、5/14）
	Ａ型肝炎		１人（5/11）
５類	クロイツフェルト・ヤコブ病		１人（5/8）
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		２人（5/15、5/15）
	侵襲性肺炎球菌感染症	３人（4/6、4/25、5/2）	１人（5/14）
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		１人（5/8）
	梅毒	８人（4/4、4/4、4/9、4/9、4/16、4/17、4/27、4/27）	３人（5/11、5/14、5/15）
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	１人（4/11）	
	百日咳	５人（4/2、4/6、4/10、4/18、4/26）	１人（5/14）
	風しん	４人（4/9、4/9、4/11、4/20）	

（　）は届出日

４　その他《公開》

次回開催予定日　平成 30 年６月 18 日（月）　14 階第７会議室

【資料】
資料１：最近の感染症情報
資料２：４月の感染症の概要
資料３：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（５月分）

平成３０年５月２１日

１　患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、4月は2,003人で、前月比0.59と減少した。

咽頭結膜熱、手足口病、流行性角結膜炎は大きく増加、突発性発しんはやや増加、感染性胃腸炎、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)はほぼ横ばい、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ＲＳウイルス感染症はやや減少、インフルエンザは大きく減少した。

(2) 特記事項

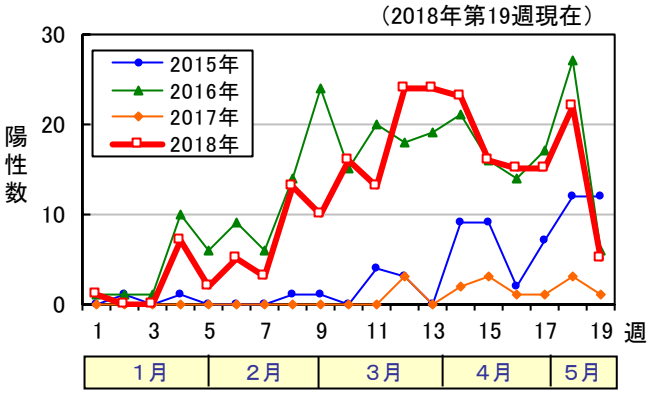
● 市内の基幹病院2か所による迅速診断検査結果では、3月以降ロタウイルスが増加している。また、基幹定点からの感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)の報告数は、例年に比べ、多い状況が続いている。ロタウイルスは、乳幼児に急性胃腸炎を引き起こす主要な原因で、感染力が強く、2～4日の潜伏期間の後、下痢・嘔吐・発熱などの症状が出現し、ノロウイルスに比べると症状が少し重い傾向にあると言われている。オムツや吐物の適切な処理、手洗いの徹底などが感染拡大防止の基本となる。また、乳児を対象としたロタウイルスワクチンは、初感染時の重症化・合併症予防に有効であるとされており、任意接種が可能となっている。

● 2018年3月以降、海外からの輸入症例を契機として、沖縄県で麻しん患者の発生が続いている。また、沖縄県内で感染し、他県において発症した事例も報告されている。広島市ではまだ麻しん患者の報告はないが、注意が必要である。麻しんは麻しんウイルスによる感染症で、空気感染・飛沫感染・接触感染でヒトからヒトへ感染し、その感染力は非常に強い。10～12日間の潜伏期間の後、発熱や咳、鼻水などの風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現する。肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症すると言われている。また、10万人に１人の頻度で、麻しんウイルスに感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)と呼ばれる予後不良の中枢神経疾患を発症することもある。麻しんの感染予防には予防接種が最も効果的である。定期接種の対象者は早めに接種を受けることを推奨する。また、麻しんの罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合は、予防接種の検討が必要である。

● 広島市で風しん患者の報告が4件あった(2016年、2017年は0件)。免疫のない妊娠初期の妊婦が感染した場合、出生児が先天性風疹症候群を発症する可能性があるため、特に注意が必要である。妊婦を守る観点から、風しんにかかったことがなく、予防接種を受けてない人は予防接種を受け、風しんの流行を抑制することが重要である。

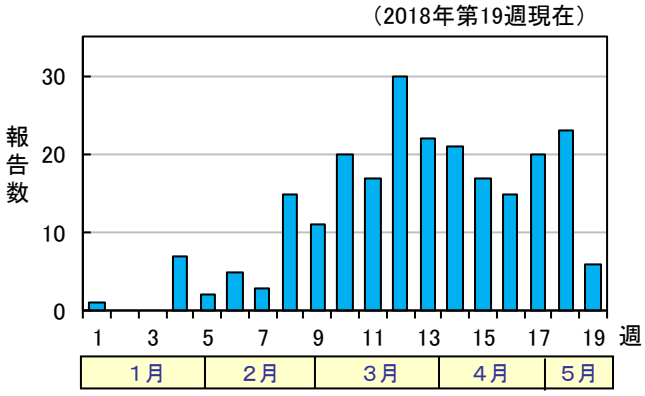
迅速診断キットによるロタウイルス検出状況

（2018年第19週現在）



基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数

（2018年第19週現在）



(3) ４月の１類～５類感染症（全数報告）患者発生数

１類感染症：なし

２類感染症：結核　10件（患者：7件、潜在性結核：3件）

３類感染症：腸管出血性大腸菌感染症　1件

４類感染症：なし

５類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症　3件　　梅毒　8件　　バンコマイシン耐性腸球菌感染症　1件

百日咳　5件　　風しん　4件

(4) 今後の流行予測

感染性胃腸炎・・・・【流行中】

２　検査情報

4月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	B型インフルエンザウイルス	3月	1 人
感染性胃腸炎	ノロウイルスGⅡ	2月	1 人
	ノロウイルスGⅡ	3月	1 人
	アデノウイルス1型	3月	1 人
	A群ロタウイルス	3月	2 人
RSウイルス感染症	RSウイルス	3月	1 人
急性脳炎	A群ロタウイルス	3月	1 人

特記事項

8人の患者から5種類のウイルス8株が検出された。検出ウイルスの内訳は、A群ロタウイルス3株、ノロウイルスGⅡ2株、RSウイルス、アデノウイルス1型及びB型インフルエンザウイルス各1株であった。

5類感染症定点情報
（平成30年4月解析分）

1. 週報対象（第14週～第18週）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↓	154	4.17		10	流行性耳下腺炎		16	0.66	
2	咽頭結膜熱	↑	44	1.83		11	RSウイルス感染症	↘	43	1.80	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	283	11.78		12	急性出血性結膜炎		3	0.38	
4	感染性胃腸炎	→	1,174	48.92	流→	13	流行性角結膜炎	↑	52	6.52	
5	水痘		21	0.88		14	細菌性髄膜炎		－	－	
6	手足口病	↑	25	1.04		15	無菌性髄膜炎		1	0.14	
7	伝染性紅斑		3	0.12		16	マイコプラズマ肺炎		－	－	
8	突発性発しん	↗	40	1.67		17	クラミジア肺炎		－	－	
9	ヘルパンギーナ		23	0.96		18	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	→	96	13.72	

2. 月報対象（4月）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↗	30	3.33
2	性器ヘルペスウイルス感染症	↗	15	1.67
3	尖圭コンジローマ		10	1.11
4	淋菌感染症		5	0.56
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↘	19	2.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		6	0.86
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		－	－

発生記号

前月と比較しておおむね1：2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1：1．5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1：1．1～1．5の増減	↗	↘
ほぼ横ばい（発生件数少数のものを含む）	→	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数（平成30年4月分）

第14週～第18週（4月2日～5月6日）報告分

類型		疾患名	広島市		全国	
			報告数	累積	報告数	累積
一類	1	エボラ出血熱	－	－	－	－
	2	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	3	痘そう	－	－	－	－
	4	南米出血熱	－	－	－	－
	5	ペスト	－	－	－	－
	6	マールブルグ病	－	－	－	－
	7	ラッサ熱	－	－	－	－
二類	8	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	9	結核	10	52	1,959	6,863
	10	ジフテリア	－	－	－	－
	11	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	－
	12	中東呼吸器症候群	－	－	－	－
	13	鳥インフルエンザ（H5N1）	－	－	－	－
	14	鳥インフルエンザ（H7N9）	－	－	－	－
三類	15	コレラ	－	－	－	2
	16	細菌性赤痢	－	－	11	59
	17	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	121	272
	18	腸チフス	－	1	1	15
	19	パラチフス	－	－	3	8
四類	20	E型肝炎	－	－	53	130
	21	ウエストナイル熱	－	－	－	－
	22	A型肝炎	－	－	92	235
	23	エキノコックス症	－	－	2	3
	24	黄熱	－	－	－	－
	25	オウム病	－	－	3	3
	26	オムスク出血熱	－	－	－	－
	27	回帰熱	－	－	－	－
	28	キャサヌル森林病	－	－	－	－
	29	Q熱	－	－	－	1
	30	狂犬病	－	－	－	－
	31	コクシジオイデス症	－	－	－	－
	32	サル痘	－	－	－	－
	33	ジカウイルス感染症	－	－	－	－
	34	重症熱性血小板減少症候群	－	－	9	10
	35	腎症候性出血熱	－	－	－	－
	36	西部ウマ脳炎	－	－	－	－
	37	ダニ媒介脳炎	－	－	－	－
	38	炭疽	－	－	－	－
	39	チクングニア熱	－	－	1	1
	40	つつが虫病	－	1	10	50
	41	デング熱	－	－	7	34
	42	東部ウマ脳炎	－	－	－	－
	43	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）	－	－	－	－
	44	ニパウイルス感染症	－	－	－	－
	45	日本紅斑熱	－	－	18	19
	46	日本脳炎	－	－	－	－
	47	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－
	48	Bウイルス病	－	－	－	－
	49	鼻疽	－	－	－	－
	50	ブルセラ症	－	－	－	1
	51	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	－
	52	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	－
	53	発しんチフス	－	－	－	－
	54	ボツリヌス症	－	－	1	2
	55	マラリア	－	－	2	13
	56	野兎病	－	－	－	－
	57	ライム病	－	－	－	－
	58	リッサウイルス感染症	－	－	－	－
	59	リフトバレー熱	－	－	－	－
	60	類鼻疽	－	－	－	－
	61	レジオネラ症	－	1	78	330
	62	レプトスピラ症	－	－	－	－
	63	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－
五類	64	アメーバ赤痢	－	3	74	264
	65	ウイルス性肝炎	－	2	17	55
	66	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	－	1	155	530
	67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－	－	3	3
	68	急性脳炎	－	4	40	291
	69	クリプトスポリジウム症	－	－	－	6
	70	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	2	15	65
	71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	－	68	285
	72	後天性免疫不全症候群	－	3	98	393
	73	ジアルジア症	－	－	11	28
	74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	－	44	161
	75	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	4	15
	76	侵襲性肺炎球菌感染症	3	7	396	1,403
	77	水痘（入院例に限る。）	－	－	45	127
	78	先天性風しん症候群	－	－	－	－
	79	梅毒	8	34	617	2,024
	80	播種性クリプトコックス症	－	－	19	57
	81	破傷風	－	－	10	25
	82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－
	83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	3	14
	84	百日咳	5	9	501	1,249
	85	風しん	4	4	9	14
	86	麻しん	－	－	108	125
	87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	2	6